

こどもの急病

急病センター、救急病院への かかり方

こどもは突然、熱を出す、吐く、ゼーゼーするなど色々な症状を出します。



小児科医にとっては日常良く目にする症状ですが、多くの親ごさんはビックリしてしまうでしょう。

こどもは自分で症状を訴えられないためにどこが悪いのか判断に迷うことも多いと思いますし、症状も急速に進むこともありますのでさらに不安になると思います。

今回、北海道小児科医会は
「こどもの様子を見て、すぐ病院へかかった方がよい」と判断する症状を目安として簡単にまとめました。

困った時、参考にさせていただければ幸いです。

北海道小児科医会
北海道医師会
北海道

はつ ねつ
▶▶ 発熱



時間外でもすぐに受診した方がよい時

- ① 生後3ヶ月未満の赤ちゃんに38度以上の発熱がある時
- ② 冷やしたり、熱さましを使ってもグッタリして、顔色が良くない時
- ③ 息づかいが荒く苦しそうな時
- ④ 何回も吐いたり、下痢している時

- ※ こどもはよく熱を出します。発熱したからといって、あわてる必要はありません。熱以外の症状をよく見てください。
- ※ 熱がでる前に手足が冷たく、ブルブルふるえることがあります。これはケイレンではなく悪寒（おかん）という症状です。少し暖かくしてあげて、熱が上がった頃に熱さましなどを使用してください。発熱は感染に対して抵抗する反応ですから、むやみに解熱剤（熱を下げる薬）を使用する必要はありません。

▶▶ ひきつけ



時間外でもすぐに受診した方が良い時

- ① 初めてのひきつけや、高熱を伴って長く続く時
- ② 数分でおさまっても、また繰り返す時
- ③ 変なうわ言をいい、意識がはっきりしない時
- ④ 頭部打撲の後
(できれば脳外科受診が望ましい)

※ ケイレンは小児科医でも心配な症状です。あわてず、衣服をゆるめ、吐いた物を飲み込まないように顔を横に向けましょう。
始まりの時間を確認して、ガクンガクン、ピクピク、ツッパルなどのかたちをよく見てください。

せき
▶▶ 咳



時間外でもすぐに受診した方が良い時

- ① 激しく咳き込み、何回も吐いて、飲んだり食べたりできない時
- ② ゼーゼー、ヒューヒューして呼吸が苦しく、横になっていられない時
- ③ 胸を痛がる時
- ④ 声がかすれて、息苦しそうな時
- ⑤ 何かを飲み込んだ疑いがあり、咳込みが激しい時

※ 気管支喘息と診断された方は、かかりつけ医に夜間、発作時の対処について聞いておきましょう。

はら いた
▶▶ 腹痛



時間外でもすぐに受診した方がよい時

- ① 何回も吐いたり、機嫌が悪く、便に血が混じっている時（便はオムツのまま持っていきましょう）
- ② そけい部（股の付け根やチンチンの袋、大陰唇）がいつもと違ってはれて、痛がり、吐く時
- ③ 年長児などで右下腹部を痛がり、熱がある時
- ④ 年長児で強い痛みがあり、便に血が混じっている時（できれば、お尻をふいた紙や便をビニール袋に入れ持っていきましょう）

▶▶ は 吐 く



時間外でもすぐに受診した方が良い時

- ① 下痢、発熱があり、元気がなくなって来た時
- ② 機嫌が悪く、便に血が混じっている時
- ③ 高熱、頭痛を伴う時
- ④ 意識がモウロウとしている時

※ おなかのカゼは、激しく吐くことから始まる場合が多くみられます。

2～3時間は気持ちの悪さが続きます。おなかをさすってあげて、不安を取り除き、気分を落ち着かせてあげてください。その後、白色便が出てくることもあります。あまりグッタリしていなければ受診は翌日でも良いでしょう。

水分は、こどもが欲しがるようになってから、少しずつ飲ませましょう。

▶▶ ほっしん 発疹、じんましん

時間外でもすぐに受診した方がよい時

- ① じんましんに咳やゼーゼーを伴い、顔（まぶたやくちびる）などのはれが強い時
- ② じんましんで顔色が悪く、冷や汗なども伴う時
- ③ じんましんで冷やしただけでは、かゆみが止まらない時

※ 発疹は色々な病気（溶連菌感染症、水ぼうそうなど）で出ますが、すぐに受診しなければならないことはまれです。

▶▶ こどもと事故



危険！！年齢により危険度が変わります。

- ① ボタン電池（しっかり固定を確認！）
- ② お風呂の残り湯など（深さ数cm程度でもおぼれます！）
- ③ タバコ（吸わないのに越したことは無いです！）
- ④ 洗剤、薬など（使ったら手の届かないところに！）
- ⑤ やけど（カップめん、ポット、ストーブなど）
- ⑥ 転落（ベランダ、階段周囲に注意！）

※ こどもの発達は個人差があります。
できないと思っていたことが急にできるようになります。
こどもの生活環境に十分注意してください。
（母子手帳に詳しく書かれておりますので読んでください。）

▶▶ ワクチン



ワクチンでこどもを病気から守りましょう！

- ① 定期接種（自治体が費用負担するので無料です。）
 - ・ 生後2か月から 「ヒブワクチン」、「小児用肺炎球菌ワクチン」
 - ・ 生後3か月から 「四種混合ワクチン」
 - ・ 1歳から 「MRワクチン」（はしか、風疹）、「水ぼうそう」
 - ・ 小学校入学1年前から1年間 「MRワクチン」
（1歳の時と合わせて2回接種することになります。）
 - ・ 「BCG」は自治体により接種時期が違います。
 - ・ 「日本脳炎ワクチン」（接種時期は小児科医と相談）
 - ・ 「B型肝炎ワクチン」（平成28年4月以降の出生児から）
- ② 任意接種はいろいろありますので小児科医と相談してください。
（母子手帳に詳しく書かれておりますので読んでください。）

▶▶ インフルエンザ のお子さんを見守るポイント



下に示す様な異常があれば、ただちに医療機関を受診しましょう。

- ① 意識がおかしい！
 - ・ぼんやりして視線が合わない。
 - ・呼びかけても答えず、うとうとしている。
- ② けいれん！
 - ・手足をつっぱり、がくがくする。
 - ・白眼をむいている。
- ③ 呼吸状態がおかしい！
 - ・顔色が悪く唇が紫色。
 - ・肩であえぐ呼吸、息苦しそう、呼吸が速い。
 - ・胸を痛がる
- ④ 食欲不振や脱水症状がある！
 - ・食欲がない。
 - ・水分を取らない。尿が出ていない。
 - ・何度もはく。
 - ・ぐったりしている。機嫌が悪い。

まれに肺炎や脳症、心筋炎などの重い病気を起こします。お子さんを一人にせず、誰かが必ず付き添い、意識や呼吸状態、食欲や水分摂取の状態に気をつけましょう。

※ふつうのインフルエンザは、
熱が3日間から5日間出たあと自然に良くなります。

▶▶ インフルエンザに 役立つミニ情報①

診断・治療について

- ・熱が出たあとすぐに診断キットで検査をしても、確実にインフルエンザと診断出来るわけではありません。
- ・発熱後12時間から24時間くらい経過後に検査すると、90%程度の確率でインフルエンザと診断できるようになります。
- ・処方された抗ウイルス薬（タミフルやリレンザ他）は、熱が下がっても最後まできちんと使用しましょう。

他人にうつさないようにするためには

- ・手洗いやマスクを使用し、咳エチケットを守りましょう。
- ・インフルエンザウイルスは毎年少しずつ変化します。毎年流行前の10月から12月頃までにインフルエンザワクチンの接種を受けましょう。
- ・もし患者と同居する家族の中に、インフルエンザに感染すると重症化し易くなる呼吸器や心臓、腎臓などの慢性の病気や糖尿病などの持病を持つ人、妊娠している人がいる場合には、患者との接触を出来るだけ避けるとともに、かかりつけ医に感染防止について相談しましょう。

▶▶ インフルエンザに 役立つミニ情報②

家庭での対応について

- ・ 未成年の場合、抗ウイルス薬を使っていなくても、急に高いところから飛び降りたり、道路へ飛び出したりする異常行動があります。高熱が出たら最低2日間は、こどもを一人にしないように気をつけましょう。
- ・ インフルエンザの症状が一時良くなっても、再び発熱して咳がひどくなることがあります。それは細菌の感染により細菌性肺炎を引き起こすことがあるためです。熱が下がった後も、しばらくは気をつけましょう。
- ・ おとなに使用される強力な解熱剤（ボルタレンやポンタール、インダシン等の薬）は、小児には使用しないことになっていますのでご注意ください。

登園・登校や外出の目安について

(2012年4月学校保健安全法改正)

- ・ 薬を使用するとすぐ熱が下がるため、登園・登校する人がいます。しかし病気が完全に治ったわけではなく、熱が下がってもウイルスの排泄が続いているので、他の人に病気をうつす可能性があります。
- ・ 抗ウイルス薬を使用している学童の登校目安は、解熱後2日間、発症後5日間は出席停止になります。
- ・ 乳幼児の場合は、学童より回復に時間がかかるため、解熱後3日間は登園停止になります。

**こどもが急病！
救急当番医に駆け込む前に…**

北海道小児救急電話相談

看護師が電話相談に応じ、直ちに救急病院にかかる必要があるか、家庭でどのような応急手当をすればよいかなどのアドバイスを行います。より専門的な知識を要する相談には、小児科医が応じます。

■受付時間／

毎日：午後7時～翌朝8時

■受付電話番号／

011-232-1599

■短縮ダイヤル／

#8000

(※家庭のプッシュ回線、携帯電話から)

**救急当番医や、
最寄りの医療機関を探すときに…**

北海道救急医療・広域災害情報システム

■インターネット／

<http://www.qq.pref.hokkaido.jp>

■フリーダイヤル／

0120-20-8699

■携帯電話・PHS／

011-221-8699

※医療相談は行っておりません。

中毒110番・電話サービス

(公財)日本中毒情報センターでは化学物質(タバコ、家庭用品など)、医薬品、動植物の毒などによって起こる急性中毒について、応急処置など情報提供しています。

■一般市民専用電話／

(情報提供料：無料)

つくば

029-852-9999

※365日 9時～21時

大阪

072-727-2499

※365日 24時間対応

■タバコ専用電話／

(情報提供料：無料)

072-726-9922

※365日 24時間対応、

テープによる情報提供

**急患診療所に
行くかどうかを今すぐ知りたい方は…**

お母さんのための救急&予防サイト こどもの救急

お子さんの症状をチェックすることで、すぐに病院に行くべきか、おうちで様子をみても大丈夫か、判断の助けになります(生後1カ月～6歳のお子さんが対象)。

■パソコン、携帯電話で

<http://kodomo-qq.jp/>



日本小児科学会提供